

「2年に1回検診を」

製鉄記念室蘭病院でセミナー

乳がん治療の現状解説

製鉄記念室蘭病院(前田 征洋病院長)の「第31回がんセミナー」が11日、室蘭市知利別町の同病院で開かれ、市民らが乳がんの診断と治療の現状などに知識を深めた。

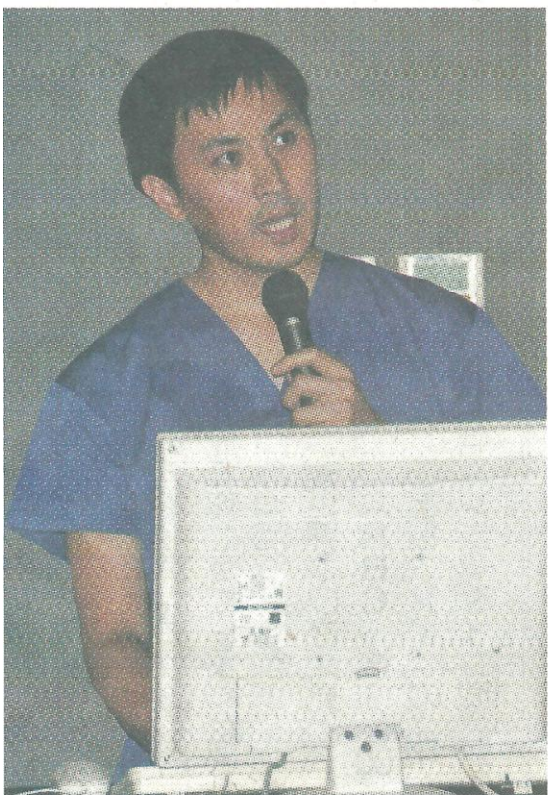
約40人が耳を傾けた。大高和人・呼吸器外科医長が「乳がんって、どんな病気?」をテーマに解説。大高医長は道内の受診率が全国平均を下回っている現状にも触れ「40歳以上は2年に1回のペースで乳がん検診

を受けてほしい」という。

「乳がんが見つかった時点で全身にがん細胞が回っており、手術だけで治る病気ではない」と解説。目に見えないがん(微小転移)を抑え込むため、抗がん剤やホルモン剤、分子標的治療などの「術後治療」の大切さも説くなど、市民らも早期発見の大切さに理解を

深めていた。

(松岡秀宣)



乳がんの診断と治療の現状などを解説する大高医長